まちづくり交流フォーラム

研究集会“1998”

21世紀への市民からのメッセージ

高齢化・低成長社会の21世紀を迎えるにあたり、これまでの高度成長時代のまちづくりから大きくパラダイムを転換することが求められています。

“まちづくり”を都市工学や建築・土木などのハード面に限定せず、環境・福祉・教育・文化といったソフト面にも視野を広げ、また、いわゆる社会的マイノリティといわれる高齢者・女性・子ども・障害者・外国人などがかかえる課題も積極的に受けとめ、そして、そうした視点から取り組まれている各地・各領域での様々な試みを交流し、新たな文化、新たなコミュニティの創造をめざし21世紀におけるまちづくりを議論するために、この研究集会を三年計画で開催します。

初年度の今年は、「出会い」がコンセプト。そして、次年度は「ディスカッション」、最終年度は「提言」です。

11月29日（日）10:00−17:00

名古屋市公会堂ほか。
名古屋市昭和区鶴舞近辺。

主催：「まちづくり交流フォーラム研究集会」実行委員会

共催：市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委員会／阪神淡路コミュニティ基金
後援：愛知県／岐阜県／静岡県(予)／三重県／名古屋市／
㈳地域問題研究所／㈶名古屋都市センター／㈶岐阜県産業文化振興財団･地域文化研究所／
㈶静岡総合研究機構／㈶三重社会経済研究センター／自治体学会東海ブロック会議

タイムテーブル

9:30　受付開始

第1部（10:00−12:00）　会場：名古屋市公会堂4階ホール

- ●基調報告：「今、まちづくりとは」（中田　實：まちづくり交流フォーラム代表、愛知学泉大学コミュニティ政策研究所長）
- ●特別報告：「市民が作る復興計画。－阪神淡路大震災の教訓」（今田　忠：阪神淡路コミュニティ基金代表）
- ●活動やプロフィール紹介：参加団体やコーディネーター、事例発表者など約100名をリレー紹介します。

昼食交流会（12:00−13:20）。弁当は予約して下さい：1,000円。　会場：同4階ホール

- ●名刺交換・情報交流・インフォメーション活動（各団体のブース活動、展示会など）＊希望団体はお申し込み下さい。

第2部（13:30−17:00）　分科会（会場分散）　＊会場は、応募状況によって変動することがあります。

第1分科会：災害と市民活動－どうする？コミュニティ。　名古屋市公会堂：100名
第2分科会：協働型まちづくりの主体とシステム　中央福祉専門学校：100名
第3分科会：水と緑。－里山をいかす。　中央福祉専門学校：80名
第4分科会：よみがえれ農山村。－農山村と都市の共生ネットワーク　中央福祉専門学校：50名
第5分科会：中心市街地の活性化を考える。　日本福祉大学サテライトキャンパス名古屋：50名
第6分科会：人にやさしいまちづくり。今、福祉ネットワークか。　名古屋市公会堂：200名
第7分科会：多文化共生のまち。－国際化と人権　名古屋市公会堂：30名
第8分科会：こどもたちとまちづくり　名古屋市女性センター：50名
第9分科会：歴史や文化を生かしたまちづくり　名古屋市女性センター：50名
第10分科会：地域メディアでまちをつなごう。　日本福祉大学サテライトキャンパス名古屋：50名
特別分科会：学生・若者の交流＆ネットワーキング　※11月21・22日に開催。　同朋大学知文会館：30名

閉会：17:00（但し、会場によっては16:30終了の分科会があります。）

分科会のご案内

第1分科会：「災害と市民活動、どうする？コミュニティ」

未曾有の被害をもたらした阪神淡路大震災は目に見える建造物のみならず市民の生活をも破壊しました。あれから3年半が経つ中で、被災地はどのように"まち"を復興し、コミュニティを再生しようとしているのか。市民団体がまとめた「市民がつくる復興計画」を紹介しながら、これからのまちづくりを考えます。また、その活動の中から生まれた拠点づくりの構想「レスキューストックヤード」を提案します。

（パネリスト） 今田　忠：阪神淡路コミュニティ基金代表／松本　誠：明石まちづくり研究所代表、神戸新聞情報科学研究所／石井布紀子：プロジェクト結ぶ代表／栗田暢之：震災から学ぶボランティアネットの会事務局長。
（コメンテーター） 中田　實：まちづくり交流フォーラム代表、愛知学泉大学コミュニティ政策研究所長、同学部部長。
（コーディネーター） 高原　稔：(社)地域問題研究所企画部長。

第2分科会：「協働型まちづくりの主体とシステム－イギリスと日本の事例から学ぶ－」

阪神淡路大震災でのボランティア活動の高まりを背景に、市民の自発的・主体的な公益活動が社会的に重要な役割を担っているという認識が広まるにつれ、既存の社会システムの見直しが迫られています。様々な事例を交流しながら新しい市民社会の構築（市民と行政の新しい関係など）に向けた議論を深めたいと思います。「参加者も主役」の心意気でご参加下さい。

（事例報告） 「市民・企業・行政との連携でまちづくり」渡辺豊博：三島グラウンドワーク実行委員会事務局長／「人のネットワークを生かして」田中義人：21世紀クラブ／「地域振興とまちづくり」高橋　徹：ザ・伊勢講代表／「自治会活動を中心にしたまちづくり」久富　肇：名古屋市平針団地自治会副会長。
（コメント） 「市民参加とまちづくり」浅野　聡：三重大学工学部助教授／「イギリスにおけるまちづくり」鈴木勝美：前自治体国際化協会ロンドン事務所次長。
（コーディネーター） 昇　秀樹：自治体学会東海ブロック会議代表、名城大学都市情報学部教授。

第3分科会：「水と緑。－里山をいかす」

ため池や雑木林などの里山風景を住民が手入れし保全することによって豊かな生活環境づくりを実現するまちづくりが行われています。広汎な事例発表によって"水と緑"をキーワードとした都市と中山間地域を結ぶ地域間の交流を図ります。

（事例報告） 「里山の魅力」石田芳弘：愛知県犬山市長／「里山保全の人づくり」愛知県美浜町／「里山に学び生きる」伊井野雄二：エコリゾート赤目の森支配人／「市民でつくる雑木林公園」小池敦夫：名古屋市農政緑地局／「ホタルの飛び交う人里づくり」西川幸孝：朝倉川育水フォーラム事務局長。
（総括コメント） 「生活環境と里山の役割」林　進：岐阜大学教授。
（コーディネーター） 岡村　穣：名古屋市立大学芸術工学部助教授、農学博士。

第4分科会：「よみがえれ農山村。―農山村と都市の共生ネットワーク」

疲弊した農山村の前途には、都市住民と連携した日本型グリーンツーリズムの実現に期待がかかっています。一方、都市住民にとっても"農業"は魅力的な選択肢の一つになりつつあります。農山村に秘められた内発力を生かし、かつ"農業"を軸に農山村と都市が連携する道筋を見出したいと思います。

（パネリスト） 三重県飯高町：水谷晴夫／長野県浪合村：近藤康平／愛知県豊根村：峯嶋久好／鳳来町：菅野知之。
（コーディネーター） 間瀬寿夫：まちづくり交流フォーラム副代表、NHKチーフカメラマン。

第5分科会：「中心市街地の活性化を考える」

いま、中心市街地の空洞化現象が新たな都市問題として議論され、今年7月には「中心市街地活性化法」が施行されました。高度成長期には全国を画一的に誘導する街づくりが進められ個性の乏しい街があちこちに出来ましたが、ここにきて、まちづくりの視点が大きく変わりつつあるパラダイムシフトが起きています。高度情報化社会の進展の中でハード優先の従来型から人を中心としたソフト優先のまちづくりへの転換について考えます。

（事例報告） 「民間主導のアプローチ、愛知県西尾市の場合」伊藤則雄：西三河南部経済開発懇話会事務局長／「まちづくりNPO（伊賀上野）」中村伊英：ウイリアムテルズ・アップル代表／「商店街活性化の戦略的展開について―静岡県岡部町商店街や掛川市などを事例に」伊藤光造：地域まちづくり研究所／「津市の場合」疋田敏志：三重短期大学法経学科教授(予)／「研究者の立場から」水尾衣里：名古屋女子文化短期大学助教授。
（コーディネーター） 飯田英明：(財)日本不動産研究所上席主幹。

第6分科会：「人にやさしいまちづくり。―今、何故ネットワークか」

「人にやさしい街づくりネットワーク連絡会（人まちネット）」と「医療と保健と福祉の市民ネットワーク（MHWネット）東海」が主催します。二つの主催団体の活動紹介を通して、まちづくりとの接点を考えます。また、「高齢者や障害者にとって住みよいまちとは何か、一市民の視点でまちづくりを考える」のメインテーマに沿って、10人程度ずつのグループディスカッションやまちづくりウオッチングの体験を企画し、日ごろ何気なく住んでいる「街」を見直します。

（事例報告） 「春日井まつり―ハンディキャップ体験」春日井ひとまちネット／「リフォームヘルパー奮戦記」溝口武嗣：岐阜ネット／「サマリアハウスからの自立」岩瀬文朗氏／「ボランティアの立場から考える」久保田久代：常滑市はっぴいわん。
（グループ討論） ①「今、何故ネットワークか―街づくりコミュニティを考える」／②「心のバリアを考える」／③「移動のバリアー送迎移送サービスを考える」／④「住まいについて考える」／⑤「生きがいづくりについて考える」／⑥「在宅福祉の展開―ボランティアのシステムを考える」／⑦「ザ・介護保険を考える」／⑧「公共施設を考える」／⑨「まちづくりウオッチングの体験―車椅子で街に出る」
（コーディネーター） 東島修志：人まちネット、日本福祉大学高浜専門学校専任教員／伊藤光保：MHWネット東海代表。

第7分科会：「多文化共生のまち。―国際化と人権―」

海外と交流するだけが"国際化"ではありません。私たちの地域の中に隣人として住んでいる"外国人"を本当に隣人として受けとめること、多様な文化背景を持つ人々が共生する関係を築くこと、つまり国籍、出自、性別、年齢を問わず誰もが人としての権利を守られる社会を築くことが地域の国際化です。まず、その視点に立つことから始めていきます。

（事例報告） 「少年たちに表れた外国人・野宿生活者襲撃の心」小野政美：エルクラノの会事務局長／「日系ブラジル人の集住と地域自治会の受け入れ」都築くるみ：愛知学泉大学助教授／「滞日労働者の医療保障への道」杉本正次：外国人医療センター／「多様な文化を地域の資源に」金宣吉：神戸アジアタウン推進協議会。
（コーディネーター） 穂坂光彦：日本福祉大学経済開発学科教授。

第8分科会：「こどもたちとまちづくり」

―こどもを育てるまち、まちづくりへのこどもの参加を考える―

こどもの遊び場づくりに取り組み、こどもとともにまちを探検するお父さん、お母さん、指導員さん、学校教育のなかで身近な環境を教材としている先生方。今、まちはこどもを育てる器としてさまざまな視点から関心が高まっています。地域での創意工夫ある実践の交流を通じて、こどもたちにとってのまちづくりを語り合います。

（事例報告） 「ワークショップで公園づくり」名古屋市台町ふれあい公園愛護会／「先生とこどもたちがまちを探検」西尾市こどものまち学習会／「こどもたちに本を読む環境を提供する」豊橋市まどか文庫／「こどもとまちの宝物を見つける」名古屋市緑区こどもの遊び研究会／ほか。
（コーディネーター） 寺本 潔：愛知教育大学教授（子どもと環境学）

第９分科会：「歴史や文化を生かしたまちづくり」

歴史的に貴重な建造物が老朽化だけでなく土地の高度利用や税対策などの理由から取り壊される事例がますます多くなっています。危機に瀕しているこうした建造物について、単に保存するだけでなく現在のまちづくりの中に積極的に活かせるように取り組んでいる事例を紹介し交流討論や意見交換をします。

（事例報告） 「建築資産をまちづくりに活かす－市民がはぐくむ街と文化」愛知建築士会トリエンナーレ委員会／「白壁アカデミア。－キャンパスはまちなみ保存地区」市民塾・白壁アカデミア／「デザインゲーム。－有松ストーリー」服部 豊：有松まちづくりの会／「岐阜市金華地区のまちづくり」岐阜県建築士会／「伊勢市・内宮おはらい町のまちづくり」谷口 尚：伊勢市建設部都市計画課計画係長。

（コーディネーター） 尾関利勝：㈱地域計画建築研究所々長

第１０分科会：「地域メディアでまちをつなごう」

様々なメディアを駆使したユニークなまちづくりが各地で行われています。市民・住民がメディアを活用してまちづくりを進めているケース、メディアが地域ネットワークの中核になっているケース、在日外国人のくらしを新聞でつないでいるケースなど、緊密に支え合い暮らしやすいコミュニティをつくるうえで地域のメディアが果たす役割は大切です。地域のメディアをどう活用するのか、どのようなメディアプランを持ったらいいのか考えます。

（事例報告） 「市民・住民がメディアを活用してまちづくり－あすとこネット」常滑市：杉江恵子／「メディアがコミュニティのネットワークを支えた」ケーブルネット鈴鹿：阿部好一、CHUBB WEEKLY：北川直美（名古屋市北区）／「市民・住民とメディア・行政が地域を変えた－可茂ジャーナル」美濃加茂市：中野了子。

（コーディネーター） 高野春広：NHK名古屋局チーフアナウンサー。

特別分科会：若者だけの企画「学生・若者の交流＆ネットワーキング」（11月21日・22日）

建築や保健福祉・情報・地域計画など別々の分野で勉強し活動している“まちづくり”に興味を持つ若者－20代が、それぞれの分野を越えて“つきあえる、学びあえる、助けあえる仲間を作っておきたい”という思いを形にしました。参加者の活動・生活・専攻分野からの話題提供や議論をすすめ、熱く語り合いたいと思います。若者だけの合宿討論です。来年度は若者が主催して「“若者世代からまちづくりを提言する”分科会」開催をめざしています。

（テーマ） 「まちづくりにおける“大”と“小”“総論賛成・各論反対”」／「大学生活から考えるハウジングとコミュニティ」／「マンガ喫茶を生み出した愛知の若者文化とは」

会場（会議＆宿泊）：同朋大学知文会館（名古屋市中村区則武2-18-11 TEL052(452)1766）名古屋駅新幹線口から徒歩５分。

参加費：１，０００円（食費は別）

●開会：11月21日(土)14:00―閉会：11月22日(日)10:00

会場案内

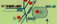
メイン会場　①名古屋市公会堂　TEL052(731)7191

分科会会場　②名古屋市女性センター　TEL052(251)3811

③中央福祉専門学校　TEL052(339)0200

④日本福祉大学サテライトキャンパス　TEL052(242)3022

（交通案内：ＪＲ鶴舞駅、地下鉄鶴舞公園駅から、いずれも徒歩数分(100m程度。)



参加申し込み要領

まちづくり交流フォーラムでは「研究集会」に参加された方々の情報や討論内容を蓄積し、そして、それらが市民によって活用されるためにインターネットやデータブックで公開したいと思っています。市民参加の手法を学習したい時、また環境問題に取り組みたい時、集会案内を出したい時、そうしたテーマの研究者や具体的な取り組み事例が紹介されていることで、実践に役立つと考え、申し込み用紙を情報の集約用紙として作成しました。ご了解頂ける項目だけで結構ですので、趣旨をご理解頂きぜひご記入頂きますようお願い致します。

なお、「参加希望分科会」だけでなく、「活動・プロフィール紹介（この場合スライド映写希望の有無）」、「ブース出店」、そして、「昼食弁当」、「託児所」の希望の有無も必ずご記入下さい。

参加費：２，０００円。当日払い（会員は無料）

昼食：１，０００円（弁当＆お茶）。ご予約下さい。　＊分科会時の休憩時の飲物は参加費にて準備します。

申込み方法：別紙の申込み用紙に必要事項記載の上、下記宛てに出来るだけ、郵送かＦＡＸにて送信下さい。定員になり次第締め切ります。

まちづくり交流フォーラム

460-0008 名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークビジネスセンタービル13F アルパック内
TEL：052（238）1600　FAX：052（238）1601